

私にとって英語は何を意味するか

私が仕事として英語の世界一国会議の資料の英訳・和訳、英文による会議の議事録の作成に入った時の英語力は、今はやりの TOEIC という物指しで測れば 700 点台の前半でしたでしょうか。当時の英語は私にとって収入を得るための手段 (vehicle) でした。



当時一緒にある国際会議で仕事していたあるイギリス人スタッフに勧められて、*The Economist* と *Business Week* の深読み (in-depth reading) し始めて語彙や言い回し (diction) が増え、翻訳が苦痛でなくなり、むしろ面白くなったことを覚えています。そして、その過程で見つけた効果的な勉強の仕方を、「TOEIC 攻略作戦」に全て盛り込んでおります。

この方法を通勤の電車の中で励行した結果、3 年後には政府省庁の白書、民間研究所の機関誌、法律、契約書、企業の年次報告書などの英訳を受注するまでになりました。

しかし、私がその過程で収穫したのは、active (or working) vocabulary (読んでわかるだけでなく、実際に正しく使うことができる語彙) が増えたことだけではないことに気が付きました。

それは、他人の言っていること・書いていることを批評する能力 (critical faculties), 論理的思考 (logical thinking), そして「正しい見方で物事を見る能力」(see things in their proper perspective) であります。

これは収入を得るための技能としての英語より、はるかに貴重な収穫であると思っています。



森 徹 Toru Mori

40 年以上にわたりビジネス文書の和文英訳を手掛け、1989 年に日本翻訳者協会理事に選任。主な英訳は、環境白書、経済白書、日本の証券市場、東アジア戦略概況。著書は「あいつの話がうまい理由」、「ビジネス英語 和英活用辞典」など。